

長与町から未来へのメッセージ

核兵器のない 平和な世界へ

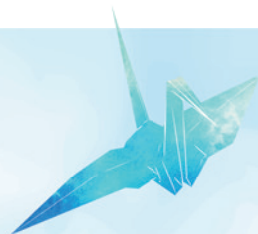
—— 過去から未来へ ——



長与町



はじめに ～過去から未来へ～



第2次世界大戦末期の昭和20年8月9日午前11時2分、長崎上空にて炸裂した一発の原子爆弾が、多くの生命・財産を奪いました。

長与町(当時、長与村)でも物的・人的被害が生じ、また町内の各所で負傷者への懸命な救護活動が行われました。

原爆投下から80年経った今日でも、被害を受けた多くの方々の苦しみ、悲しみは癒えることはありません。被爆地から、そして全世界からの核廃絶に向けた悲痛な呼びかけにもかかわらず、いまだに核兵器は廃絶されていません。一方で、被爆者の高齢化が進み、被爆体験の継承が危ぶまれています。

こうした状況の中、我々は、被爆地長崎で生きる人間

として、長崎を最後の被爆地とし、核や武力による争いのない世界を求める願いをすべての人と分かち合い、平和を希求していく必要があります。

折しも、令和6年に日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)の平和活動がノーベル平和賞を受賞されました。このことは、核兵器が二度と使われてはならないことをあらためて世界に示すとともに、核廃絶を求める思いはここ日本だけではなく、人類共通の願いであることを示しました。

我々は歴史の証人である被爆者の方々から、核兵器の悲惨さ、平和への希望という記憶を受け継ぎ、さらに新たな世代へ、過去から未来へと継承し、人類の課題である核兵器の廃絶と恒久な平和を求め続けていかなければなりません。

【目次】

- 1 はじめに
- 2 長与町平和事業のあゆみ
- 3-4 戦時中の記憶 ～町民の皆様から寄せられた写真～
- 5-6 原爆救援列車について
～被爆直後の長崎市内から長与村へ多くの負傷者を選びました～
- 7-9 長与町内 平和マップ
- 10 長与町の主な平和事業
- 11 「平和で安全な町」宣言 -核兵器の廃絶を願って-



【電子パンフレットについて】

スマートフォンやタブレット、パソコン等で「電子パンフレット」としてご覧いただいている場合、各記事に掲載のQRコードをタップすることで、リンク先のホームページ掲載記事や平和遺構の写真、被爆体験集の動画などをご覧いただけます。

紙に印刷してご覧いただいている場合でも、QRコードをスマートフォン等で読み込むことで、同様にご覧いただけます。



WEBページ
はこちらから
※こちらは
サンプルです



写真などは
はこちらから
※こちらは
サンプルです

【身近にあります 平和遺構】



このアイコンのついた平和遺構については、周囲を含めた360度写真でご覧いただけます。平和遺構は身近な場所にあります。ぜひ実物もご覧ください。

長与町平和事業のあゆみ

昭和31年	「忠魂碑」を建立
昭和42年	「原爆受難者之墓」を建立
平成6年	「平和で安全な町」を宣言
平成8年	平和祈念碑「愛・二人」を中尾城公園内に建立、被爆2世柿の木を同所に植樹
平成12年～	「平和コンサートinながよ」を開催
平成13年	日本非核宣言自治体協議会に加盟
平成17年 被爆60周年	平和祈念碑「平和萬歳」を長与駅東口に設置(建設実行委員会) 「灯ろう流し」を実施
平成18年	中尾城公園内に「平和の広場」を整備し、その象徴として「平和の塔」を建立
平成18年～ 平成26年	「平和のとしび」を開催
平成20年	平和首長会議に加盟 広島被爆2世アオギリの木を中尾城公園内に植樹
平成21年	被爆3世ザクロの木を中尾城公園内に植樹
平成22年～	「原爆展」を開催
平成23年	「平和で安全な町」宣言塔を庁舎前に設置 「長与町被爆体験談集」を作成

平成27年 被爆70周年	広島平和祈念式典に中学生を派遣 平和遺構説明板(長与国民学校跡地)を設置 原爆受難者之墓への案内板を設置 広島被爆2世アオギリの木を長与中学校に植樹
平成27年～	「平和のつどい」を開催
平成29年	原爆救援列車モニュメントとして、 「原爆救援列車」の説明板、 C57形蒸気機関車の車輪を設置(長与駅)
平成30年	「長与国民学校高田分校跡」説明板を設置
令和元年	ICAN「ノーベル平和賞メダル・賞状(レプリカ)」 展示会を長与町役場1階町民ホールで開催
令和4年	原爆救援列車モニュメントとして、 「原爆救援列車」の説明板、 C57形蒸気機関車の車輪を設置(道ノ尾駅)
令和6年	原爆救援・救護活動「炊き出し釜跡地」の 説明板を設置(広瀬酒本舗)
令和7年 被爆80周年	「平和のつどい」を平和コンサートと合同開催 「被爆80年ギャラリー」及び「折鶴アート」の 展示を実施

※上記のほか、各小・中学校において平和学習を行うなど、各種事業を実施しています。

被爆の実相を伝える

【被爆体験談集・動画】を
スマートフォン・タブレット等
でご覧いただけます。

▶詳しくは
10ページを
ご覧ください。



WEBページは
こちらから



戦時中の記憶

～町民の皆様から寄せられた写真～

長崎に原爆が投下され、戦争が終結してから80年が経ちました。

若い世代にとって、戦争は実感がわからないことかもしれませんが、当時を生きる長与町民（長与村民）は、戦時中の徴兵や動員、物資の供出、食糧不足など、厳しい生活統制の下で、日常生活を送っていました。

下記の写真は町民の皆様から寄せられた、戦時中の記憶を残す写真です。当時の人々や家族の日常が戦争と隣り合わせであったことが感じられます。

戦争に行く人、それを見送る人、帰りを待つ人、当時の人々は、家族や仲間と何を語り、何を思い、どう生きていたのでしょうか。



出征時の家族写真（長与村近くで撮影か）



出征時に撮影したと思われる集合写真



志願入隊時の中学校同級生からの国旗寄書き



従軍者や関係者を顕彰する記章

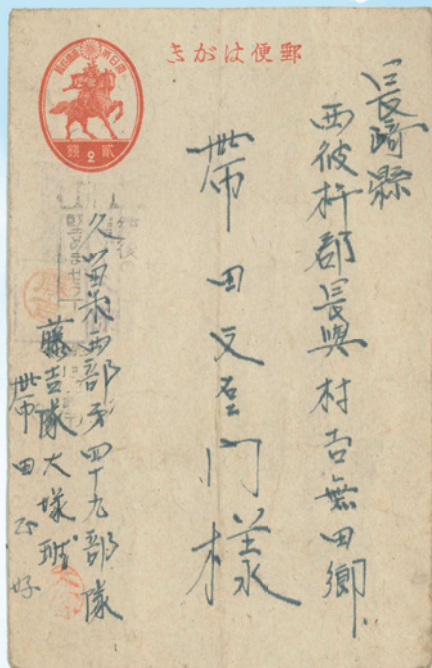


長与小学校全景（昭和11年10月）

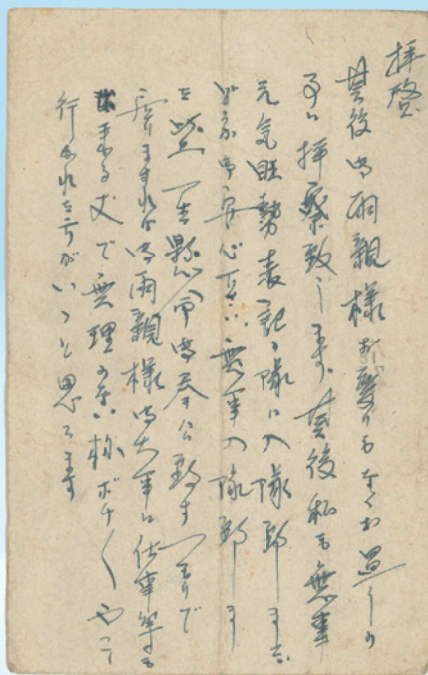
※昭和16年に国民学校令が公布され、長与国民学校に名称が変更



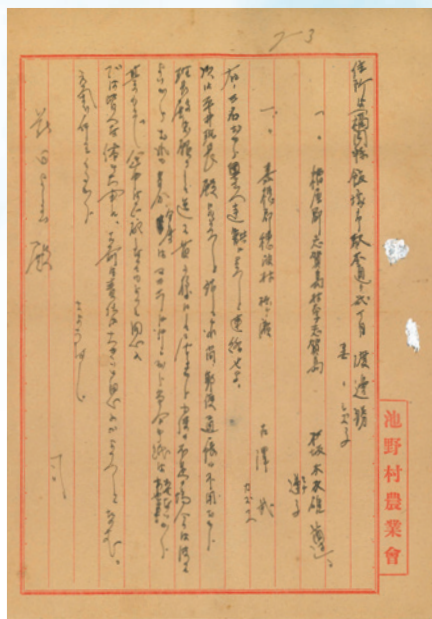
長与小学校落成祝（昭和11年）



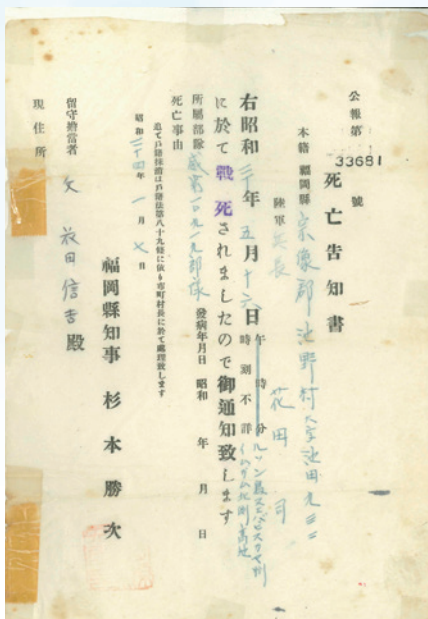
長与村の両親あてに入隊したことを知らせるはがき



軍服姿の男性



国外出征時の父からの手紙



国内の家族あてに送られた死亡告知書

被爆80年 ギャラリーについて

町民の皆様から寄せられた写真は、原爆展開催時(令和7年8月上旬予定)に、長与町役場ロビーにて展示されます。

また、下記QRコードから、長与町ホームページ上にて写真の一部をご覧いただけます。



写真の一部は
こちらから

【戦後の風景】



長与駅前橋(昭和29年)



船津橋。長与村に待望のバス乗り入れが実現した。(昭和28年)

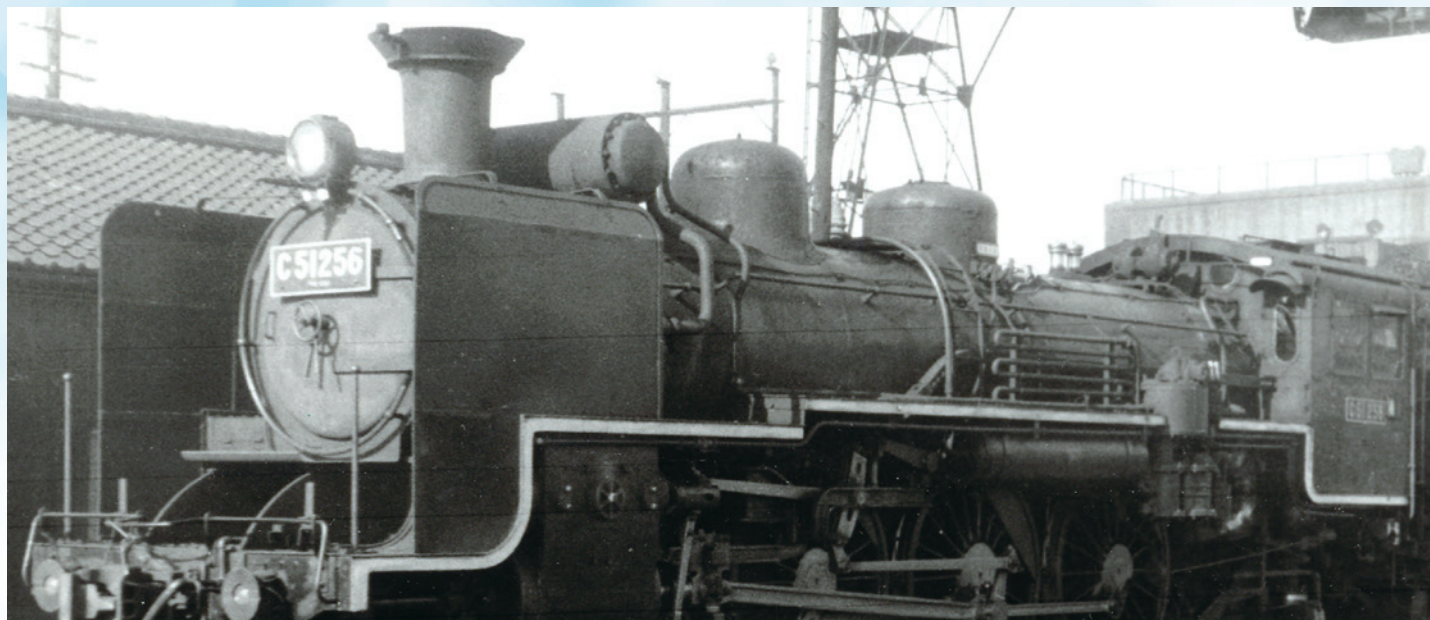


榎の鼻前の飛び石(昭和29年)

原爆救援列車について ～被爆直後の長崎市内

平和への祈念と被爆体験の継承を目的として、
原爆^{さくれつ}炸裂直後に長与駅を出発した「原爆救援列車」
説明板と蒸気機関車の車輪を長与駅と道ノ尾駅に
設置し、当時の様子を現代に伝えています。車輪

は、いずれも、救援列車の役割を担ったC51形の後継
車両にあたり長崎中央公園に設置されていたC57
形蒸気機関車の車輪部分を、長崎市より寄贈を
受け、移設したものです。

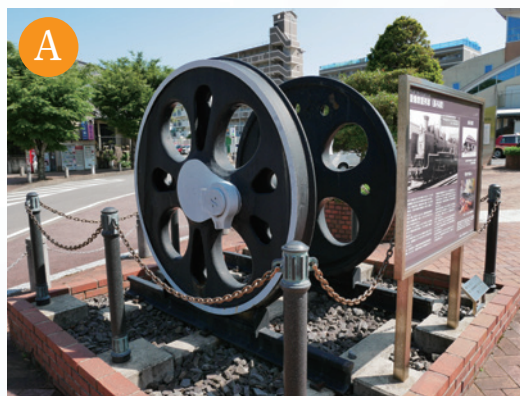


当時の鉄道輸送を担っていたC51形蒸気機関車（提供:京都鉄道博物館）



当時の救援活動の様子を伝える絵画（寺井邦人氏 作 いずれも長崎原爆資料館所蔵）
作者は当時長崎機関区に所属する機関士だった。

長崎本線肥前山口駅で原爆投下を知り、救援列車3号（C51形）を運転して爆心地近くの西町踏切まで乗り入れたときの状況を絵にしたもの。



現在の長与駅「原爆救援列車」の説明板、
C57形蒸気機関車の車輪（平成29年設置）



WEBページは
こちらから



写真などは
こちらから



救援列車の始発駅となった長与駅
（昭和40年代撮影）

から長与村へ多くの負傷者を運びました～

原爆投下後、多くの生命が奪われ、多数の負傷者が線路沿いに続々と避難してきました。

長与町（当時、長与村）においても、爆風や熱線の影響で家屋などの建物が損壊・焼失し、多くの人々がガラスの破片などで外傷を負いました。

長与駅では、ホームに停車していた下り列車と上り列車の窓ガラスが爆風の影響で破損し、ガラスの破片で乗客が負傷しました。当時、長与駅の近くに運輸省門司鉄道管理局長崎管理部が疎開しており、原爆投下直後から同管理部において救援列車の運転計画が立てられ、道ノ尾駅を基点として、原子野と化した長崎への救援列車が運行されました。

長与駅で被災した下り列車が、8月9日の正午過ぎに長与駅を出発して、最初の救援列車として被災者の救援にあたりました。救援列車は爆心地から1.4kmほど離れた、道ノ尾駅と浦上駅の間にある照圓寺付近でこれ以上進むことが難しくなり、そこで負傷者を収

容し、諫早へ向かいました。

同じく、長与駅で被災した上り列車が9日最終の救援列車として運行するなど、8月9日に4本の救援列車が奔走し、およそ3,500人の負傷者が諫早、大村、川棚の各海軍病院などへ運ばれました。

道ノ尾駅は爆心地から北に約3.6kmの位置にあったため、駅のホームや待合室、駅前の広場には、皮膚が火傷で赤くなった人や大きな外傷を負った人など多くの被爆者で溢れていました。

道ノ尾駅の前には臨時救護所が設けられ、日本赤十字看護婦（日赤第713救護班）等が休む暇なく応急治療にあたりました。



（左）数百名の負傷者を乗せて諫早、大村駅まで運んだ。既に長崎へは午後2時頃から救援列車が2本入っていた。
（寺井邦人氏 作）

（右）現在の道ノ尾温泉付近の民家。手前は原爆により焼失した家屋。付近の十数戸が被爆と同時に燃え上がり焼失した。
（小川虎彦氏 撮影 いずれも長崎原爆資料館所蔵）



現在の道ノ尾駅「原爆救援列車」の説明板、C57 形蒸気機関車の車輪（令和4年設置）



WEBページは
こちらから



写真などは
こちらから



多くの被爆者で溢れていたという道ノ尾駅。救援列車は諫早・大村方面へ向かったが、道ノ尾駅からも負傷者が続々と乗車していった。（昭和40年代撮影）

長与町内 平和マップ

マップB

▼マップAから



マップA



「地理院地図」(国土地理院) (<https://maps.gsi.go.jp/>) をもとに作成

1 原爆救援・救護活動「炊き出し釜跡地」(広瀬酒本舗)



原子爆弾投下後、当時の長与村でも、長与国民学校及び同高田分校に約1,000人の負傷者が運び込まれ、救護・救援活動が行われました。

爆心地から約6.5kmに位置する広瀬酒本舗では、原爆投下の翌日から警防団の要請を受け、酒工場の鉄釜と備蓄していた米を使い、私財を投げ打った炊き出しが行われました。

無償で行われたこの炊き出しは、1日に3回、約10日間続き、

使った米は約1,500俵(約9万kg)にも上りました。

また、仕入れていた焼酎も救護所へ提供しました。当時長与村の救護所に医師はおらず、薬もほとんどなかったことから、応急処置としてこの焼酎が消毒用途で使われたといいます。

釜跡のそばには、「長崎県まちづくり景観資産」に指定された旧廣瀬酒造場煙突が残り、米軍機による機銃掃射の弾痕が残っています。



WEBページは
こちらから



写真などは
こちらから

2 長与国民学校(救護所)跡



現在の長与町武道館を含む敷地には、原子爆弾が投下された当時、長与国民学校（現在の長与小学校）が建っており、爆風で窓枠やガラスの破片が散乱するなどの被害を受けました。

教室や講堂では、長崎市内から多くの負傷者が運び込まれ、村内の人々により応急手当や看護・炊き出しなどが行われました。犠牲者は主に学校裏手の皆前墓地に埋葬されたといわれています。



WEBページは
こちらから

4 原爆受難者之墓



昭和42年、長与国民学校の救護所における原爆死没者の霊を弔うため、皆前墓地（長与児童館そば）に、原爆受難者之墓が建立されました。

毎年8月9日、墓前では犠牲者の冥福と恒久平和を願い、長崎原爆被爆者の会長と支部や関係者の方々により慰霊祭が行われています。



WEBページは
こちらから



写真などは
こちらから

3 「平和で安全な町」宣言塔



二度とこのような戦争を繰り返してはならないということをはっきりと引き継ぐため、平成6年、核兵器の廃絶を願って「平和で安全な町」を宣言しました。

また、核廃絶を願う強い意思を内外に示すため、平成23年2月に、宣言の標柱を庁舎前に設置しています。（宣言全文は、本紙11ページに掲載しています。）



WEBページは
こちらから



写真などは
こちらから

5 長与国民学校高田分校跡



現在の九州電力長与変電所近くには、当時、長与国民学校高田分校があり、原爆投下直後に多くの負傷者が収容されました。

8月14日に針尾海兵団から派遣された救護隊が到着するまでの6日間、地元の婦人会が中心となって負傷者の救護が行われました。その後、8月19日に閉鎖され、残った患者は長崎の新興善救護病院に移されました。



WEBページは
こちらから

6 「平和萬歳」石碑



原爆被災60周年記念碑として、長崎原爆被爆者の会長と支部が中心となって、JR長与駅東口に建立しました。石碑には町の俳人・柳原天風子（本名・一由）が考えた、平和な世界が萬の世まで続いてほしいとの思いが込められた「平和萬歳」の文言が刻まれています。

360°



写真などは
こちらから

8 平和祈念碑「愛・二人」（平和の広場内）



被爆50周年の記念事業の1つとして、平成8年3月28日に建立しました。男女が手をつないだ等身大のブロンズ像を、永遠の平和をイメージした「メビウスの輪」の中に配したものとなっています。



WEBページは
こちらから

360°



写真などは
こちらから

10 被爆2世柿の木・広島被爆2世アオギリの木・被爆3世ザクロの木（平和の広場内）



被爆2世柿の木（写真）は平成8年3月の平和祈念碑の除幕に併せて、広島被爆2世アオギリの木は平成20年11月に、被爆3世ザクロの木は平成21年6月に植樹されました。このほか、長与中学校には平成27年に被爆70年の事業の1つとして、広島被爆2世アオギリの木が植樹されています。

360°



写真などは
こちらから

7 「平和で安全な町」宣言の碑（平和の広場内）



原爆によって、長崎市とともに凄惨な被害を被った長与町は、核兵器の廃絶、世界平和を願って、平成6年9月19日に「平和で安全な町」宣言を行いました。平和祈念碑「愛・二人」の建立に合わせ、平成8年3月28日、平和祈念碑「愛・二人」のかたわらに、「平和で安全な町」宣言の陶板を埋め込んだ石碑を建立しました。



WEBページは
こちらから

360°



写真などは
こちらから

9 平和の塔（平和の広場内）



平成18年の「平和の広場」の整備の際、その象徴として建立しました。例年、町内の各小中学校の児童生徒が平和への願いを込めて折った千羽鶴を献納しています。



WEBページは
こちらから

360°



写真などは
こちらから

11 忠霊塔公園 忠魂碑



日本の礎石となった尊い戦争犠牲者に崇敬の誠を捧げ、また、遺族の方々の失意の念を少しなりとも解きほぐしたいという思いから、当時の村長、議会議員、教育委員長が発起人となり慰霊碑の建立を発起、村民の寄付金と村費によって建立されました。

360°



写真などは
こちらから

長与町の主な平和事業

● 原爆受難者慰霊祭



毎年8月9日に原爆受難者慰霊祭を行っています。原爆投下によって尊い命を落とされた犠牲者の霊を弔うために、原爆被爆者の会や関係者などが参列し、原爆炸裂時刻の11時2分に爆心地の方向へ黙とうを捧げ、犠牲者の冥福と恒久平和を祈っています。

● 平和のつどい



例年、8月9日夕方に平和の広場で開催しています。子ども達による平和のメッセージ発信、平和宣言、小中学校の児童生徒が作成した折鶴の献納などを行い、原爆犠牲者の慰霊と恒久平和を願います。



WEBページは
こちらから

● 原爆展



WEBページは
こちらから

毎年8月上旬～中旬頃に長与町役場1階町民ホールで開催しています。核兵器が広島・長崎にもたらした被害の様子や平和の大切さを伝えることを目的とし、写真のほか、代表小・中学生による平和宣言、平和のメッセージ、千羽鶴等を展示しています。

● 長与町殉国者追悼式



毎年10月に町民文化ホールにて行われ、遺族の方などをはじめ、参列者による献花、黙とうなどを行い、戦争犠牲者への追悼の意を捧げるとともに、戦争の悲惨さと平和への思いを後世に伝えています。

● 平和コンサートinながよ



WEBページは
こちらから

毎年8月に町民文化ホールで開催しています。音楽を通して平和の尊さを次の世代へ伝えていくという趣旨のもと、演奏・合唱、「子どものための弦楽器講座」受講生の演奏、高校生の「平和の詩朗読」など、平和への祈りを込めた演奏・朗読が披露されます。

長与町被爆体験談集

被爆の実相と平和の大切さを後世に伝えていくため、被爆から65年目の平成22年に被爆体験談を募集し、「長与町被爆体験談集」を発行しました。長与町役場や長与町図書館等の公共施設で閲覧できるほか、右記QRコード掲載のリンクから紙面及び動画の一部をご覧いただけます。



WEBページは
こちらから



「平和で安全な町」宣言



—— 核兵器の廃絶を願って ——

世界の恒久平和は、人類共通の願望である。
現在・未来を通じて、平和で安全な町づくりを念願する私たち長与町民は、平和で安全な郷土を築き、子孫に引き継ぐことが、今を生きる私たちに課せられた最大の責務である。

原爆によって、長崎市とともに凄惨な被害を被った長与町は、核兵器の脅威をなくし、

世界平和と人類の恒久的な安全・生存を保持するため、非核三原則を守り、核兵器のすみやかな廃絶と、紛争と戦争のない世界の実現を強く望むものである。

よって、長与町民はこの理念達成のため、誇りと責任をもって、ここに「平和で安全な町」を宣言する。

1994年（平成6年）9月19日

長崎県西彼杵郡長与町

